

## 知的財産関連の動向

## 最近の WIPO の動き (32)

## 世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所 \*

## 1. はじめに

本稿では、WIPO により最近公表された以下の報告書について、その概要を紹介する。

- ・マドリッド、ハーグの年次報告書 2023
- ・COVID-19 ワクチンと治療に関する特許ランドスケープレポート

## 2. マドリッド、ハーグの年次報告書 2023

WIPO は、毎年 5～6 月頃に、国際出願制度の PCT、マドリッド、ハーグのそれぞれの年次報告書 (Yearly Review) を公表し、前年までの詳細な統計情報を報告している。本稿では、5 月に公表されたマドリッド制度に関する年次報告書 2023 (Madrid Yearly Review 2023)<sup>1)</sup> および、ハーグ制度に関する年次報告書 2023 (Hague Yearly Review 2023)<sup>2)</sup> の中から、主要な統計データを紹介させていただく。

## &lt;マドリッド年次報告書 2023 &gt;

世界全体のマドリッド出願件数は 69,000 件で前年比 6.1% 減であり、国別で見ると、米国 (12,495 件)、ドイツ (7,695 件)、中国 (4,991 件) の順であった。なお、日本からのマドリッド出願件数は 3,145 件 (第 7 位) で前年比 2.6% 減であった (図 1, 2 を参照)。

出願人ランキング TOP50 では、1 位はフランスのロリアル (170 件)、2 位はイギリスのグラクソ・グループ (136 件)、3 位はスイスのノバルティス (131 件) であり、日本企業は、4 社がランクイン

A1. Trend in international applications, 2008-2022

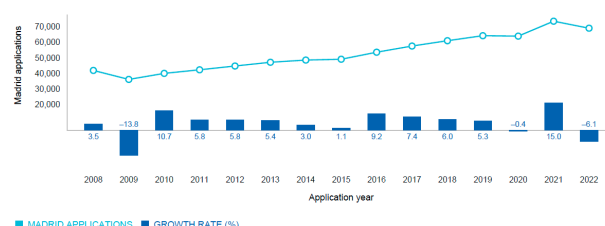


図 1. 世界全体のマドリッド出願件数推移

A5. International applications for the top 20 origins, 2022

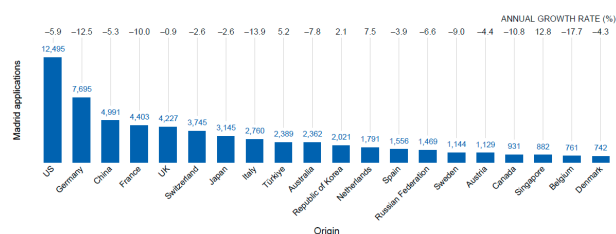


図 2. 出願人居住国別のマドリッド出願件数 (2022 年, 上位 20 国)

していた<sup>3)</sup>。

マドリッド出願時の指定国数は世界全体で 485,475 であり、前年比 6.5% 減であった。日本からのマドリッド出願時の指定国数は微減にとどまり、21,430 (第 7 位) で前年比 1.1% 減であった。マドリッド出願時に海外から日本を指定する件数は 17,852 件 (第 6 位) で前年比 8.8% 減であった (図 3 を参照)。

\* WIPO の外部事務所の 1 つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>  
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中：  
[https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo\\_japan](https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan)

A17. Designations in international applications for the top 20 designated Madrid members, 2022

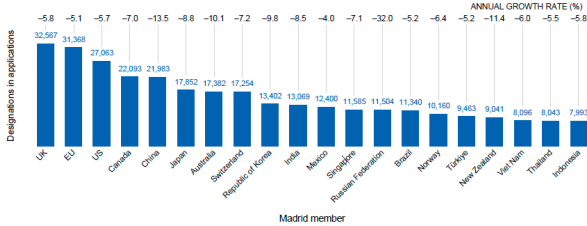


図3. マドリッド出願の指定国別の指定件数 (2022年, 上位20国)

世界全体の出願時に指定される主な商品サービスの分野別では、コンピューター及び電子機器関連 (Class 9) が全体の11.4%を占めており最も多い。続いて、ビジネスサービス (Class 35) が8.9%、技術的サービス (Class 42) が8.6%であった。

<ハグ年次報告書 2023 >

世界全体のハグ出願件数は7,973件で前年比18.8%増であり、国別では、中国 (1,287件)、ドイツ (870件)、韓国 (817件) の順であった。日本からのハグ出願件数は436件 (第8位) で前年比3.6%増であった (図4, 5を参照)。

また、デザイン数で見ると、25,030意匠で前年比11.2%増であり、国別では、ドイツ (4,909意匠)、

1. International applications, 2008-2022

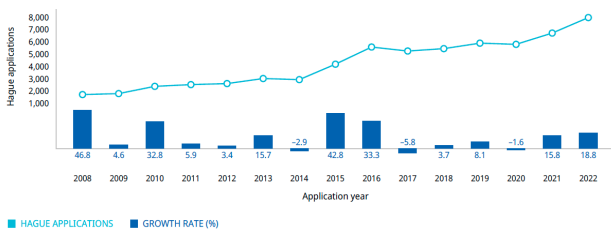


図4. 世界全体のハグ出願件数推移

7. International applications for the top 20 origins, 2022

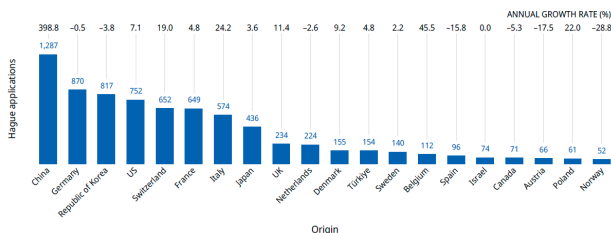


図5. 出願人居住国別のハグ出願件数 (2022年, 上位20国)

中国 (2,558 意匠)、イタリア (2,414 意匠) の順であった。2022年の中国加盟により、中国からの出願デザイン数は約4倍になり、全体の増加を押し上げていた。日本のデザイン数は935意匠 (第10位) で前年比2.4%増であり、世界全体の伸び率から見ると、やや低調であった。

出願人ランキング (デザイン数) 1位は米国のP&G (687意匠)、2位はオランダのフィリップス (633意匠)、3位は韓国のサムスン電子 (451意匠) であった。TOP50内に、日本企業2社<sup>4)</sup>がランクインしていた。

指定国ランキングはEU、英国、米国に続き日本は4位であった。出願人の国別で指定を見ると、日本を指定したトップは中国出願人であった。分類別のランキングでは「記録、電気通信又はデータ処理用の機器」、「輸送又は昇降の手段」、「包装用品」が上位であった。

1出願に含まれる意匠数<sup>5)</sup>は平均3.1件で減少傾向にあった。1出願に含まれるデザイン数を出願人居住国別で見ると、日本出願人の約7割の出願がデザイン数を1つしか含まない出願であり、この割合は世界で最も高かった。

また、地域別出願意匠数を10年前と比較すると、この10年の間に、日本 (2015年)、韓国 (2014年)、中国 (2022年) が加盟したこと等に起因し、これらの居住国出願人の利用が大幅に増えた結果、欧州がシェアを92.3%から66.3%に大きく落とした一方、アジアが3.0%から22.9%を占めるまでに増加していた (図6を参照)。

6. Designs contained in international applications by region, 2012 and 2022

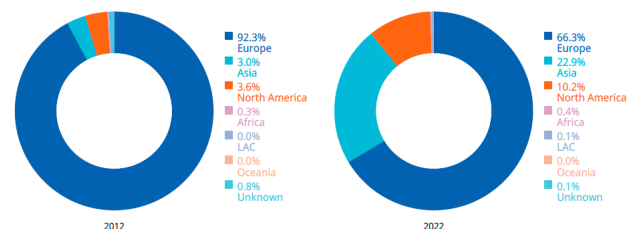


図6. ハグ出願件数 (意匠数) の出願人居住地域別の割合変化 (2012年 (左) と2022年 (右))

### 3. COVID-19 ワクチンと治療法に関する特許ランドスケープレポートが公表

WIPO では、特定の国や地域、あるいは世界全体における特定の技術の特許活動や市場・ビジネスの状況等を概説する「特許ランドスケープレポート (Patent Landscape Reports)」<sup>6)</sup> を不定期に発行している。本年 4 月、このシリーズの 1 つとして、COVID-19 ワクチンと治療法に関する技術に注目したレポート「COVID-19 vaccines and therapeutics - Insights into related patenting activity throughout the pandemic -」が公表された<sup>7)</sup> ので、概要を紹介する。なお、本レポートの特許出願に関する調査期間は、2020 年 1 月から 2022 年 9 月までの範囲であり、以下で紹介する統計データはこの調査期間においてのものである。

本技術分野における世界の特許出願動向を見ると、7,758 件の特許出願があり、6 割以上の 4,787 件が治療技術に関する出願であり、ワクチン開発に関するものよりも件数が多い (図 7 を参照)。なお、本調査期間において、COVID-19 に関する特許出願は、インフルエンザや SARS など、既存のウイルスに関する特許出願を上回っていた。

Patent dataset	Number of patent offices of filing	Number of patent applications published between 2020-2022	Number of patent applications first filed between 2020-2022
COVID-19 overall	49	8,050	7,758
COVID-19 vaccines	30	1,331	1,298
COVID-19 therapeutics	44	4,968	4,787

図 7. COVID-19 に関する世界の特許出願件数

各技術の出願人国籍別ランキングを見ると、ワクチン技術では、中国、米国、ドイツがトップ 3 であり、これに韓国、ロシア、英国が続ぎ、日本は第 7 位であった。治療技術では中国、米国、韓国がトップ 3 で、これにインド、ドイツと続き、日本は第 6 位であった。

出願を受け付けた官庁別に見ると、WIPO (PCT) が最も多く、次いで、中国国家知識産権局 (CNIPA)、米国特許商標庁 (USPTO)、欧州特許庁 (EPO) が続いており、世界各国のユーザーが積極的に PCT 出願を行っていることが把握された。

出願人種別を見ると、企業と研究機関でほぼ均

等に分かれており、ワクチンはそれぞれ 52% と 42%、治療技術はそれぞれ 49% と 38% であった。

ワクチン技術に関する特許出願の詳細を見ると、mRNA ワクチンの接種が世界的で広く実施されたにもかかわらず、ワクチン技術の特許出願のうち、mRNA ワクチンに関するものは 11% 程度であった一方、タンパク質サブユニットワクチンに関する出願が 47% を占めていた。また、世界各国でワクチンのブースター接種が広く行われるとともに、その必要性等についての議論もある中、ワクチンに関する特許のうちブースター接種の利用可能性や使用に関するものは、約 5% のみであった (図 8 参照)。

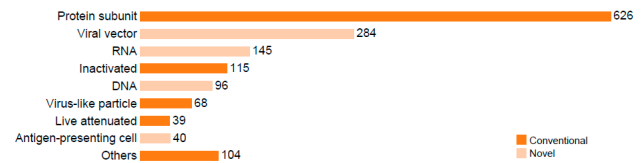


図 8. COVID-19 ワクチンに関する世界の特許出願件数の技術別内訳

治療技術に関しては、最も大きな割合を占めたのは、低分子薬で、出願の約 50% を占めていた。生物学的製剤も約 43% を占めており、急成長が見られている。また、中国からの治療技術に関する出願の中には、伝統医学に関するものも少なかつた (図 9 を参照)。なお、本報告書では、特許データに基づく新たな治療法の開発動向に関する考察もなされている

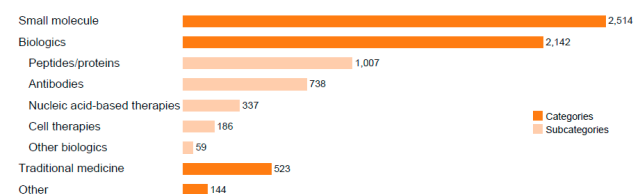


図 9. COVID-19 治療に関する世界の特許出願件数の技術別内訳

また、本技術分野の特許出願の約 4 分の 1 が複数の出願人によってなされた、いわゆる共同出願になっており、パンデミック対応に際し、企業

や研究組織間のコラボレーションが活発に行われたことを示唆している。

本レポートに関しては、全文の pdf ファイルに加え、インフォグラフィックや、インタラクティブな形でデータを参照できるウェブサイト<sup>8)</sup>も提供している。政策決定、研究開発、技術移転等の参考情報として、ぜひ広く活用いただきたい。

(注)

- 1) Madrid Yearly Review 2023 (英語) : <https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo-pub-940-2023-en-madrid-yearly-review-2023.pdf>
- 2) Hague Yearly Review 2023 (英語) : <https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo-pub-930-2023-en-hague-yearly-review-2023.pdf>
- 3) マドリッド出願件数 50 位以内にランクインしている日本企業は、資生堂 (6 位・98 件)、任天堂 (11 位・74 件)、ミズノ (20 位・51 件)、パンダイ (39 位・35 件) の 4 社。
- 4) ハーグ出願件数 (デザイン数) 50 位以内にランクインしている日本企業は、ビックウエスト (32 位・80 意匠)、三菱電機 (42 位・72 意匠)
- 5) ハーグ制度では、1 つの国際出願で最大 100 意匠まで含めることができる。
- 6) WIPO Patent Landscape Reports (英語) : [https://www.wipo.int/patentscope/en/programs/patent\\_landscapes/](https://www.wipo.int/patentscope/en/programs/patent_landscapes/)
- 7) 関連する WIPO ウェブサイト (英語) : [https://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2023/article\\_0003.html](https://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2023/article_0003.html)  
報告書全文 : <https://www.wipo.int/publications/en/details.jsp?id=4658>
- 8) 本レポートの Interactive dashboard (英語) : <https://public.tableau.com/app/profile/wipo.technology.trends/viz/PatentslandscapeonCOVID-19vaccinesandtherapeutics/DashboardSQT>

(原稿受領日 2023 年 6 月 6 日)